

調査研究終了報告書

研究分野：保健

調査研究名	サルモネラ等の薬剤耐性の拡大を予防するための基礎的研究
研究者名（所属） ※ 〇印：研究代表者	〇村上光一、江藤良樹、竹中重幸、堀川和美（福岡県保健環境研究所病理細菌課）、綿引正則（富山県衛生研究所）、八柳潤（秋田県健康環境センター）、浅井鉄男（農水省動物薬検査所）、野田多美枝、藤本秀士（九州大学大学院）、荒川宜親（名古屋大学大学院）
本庁関係部・課	保健医療介護部 保健衛生課（感染症係・食品衛生係）
調査研究期間	平成22年度－24年度（3年間）
調査研究種目	1. <input type="checkbox"/> 行政研究 <input type="checkbox"/> 課題研究 <input checked="" type="checkbox"/> 共同研究（共同機関名：九州大学） <input type="checkbox"/> 受託研究（委託機関名：） 2. <input type="checkbox"/> 基礎研究 <input type="checkbox"/> 応用研究 <input type="checkbox"/> 開発研究 3. <input type="checkbox"/> 重点研究 <input type="checkbox"/> 推奨研究 <input type="checkbox"/> ISO推進研究
ふくおか新世紀計画 第2次実施計画	柱：いきいきと暮らせる安全・安心な社会づくり 大項目：安全で安心して暮らせる生活の確保 小項目：健康危機管理体制の整備強化
福岡県環境総合基本計画 (P20,21) ※環境関係のみ	柱： テーマ：
キーワード	①薬剤耐性 ②サルモネラ ③セファロsporin ④セファマイシン ⑤プラスミド
研究の概要	
1) 調査研究の目的及び必要性	
目的：薬剤耐性サルモネラの把握。 必要性：サルモネラのセファロsporin・セファロマイシン系薬剤耐性獲得は拡大しています。これは他の細菌からの伝達性耐性因子によるものです。この耐性獲得サルモネラがどの程度県内の食品（鶏肉等）を汚染しているか、ヒトがどの程度感染しているか、その実態を調査する必要があります。	
2) 調査研究の概要	
食品由来サルモネラの耐性の調査：鶏肉等から分離されたサルモネラの（セファロsporin・セファロマイシン系薬剤を含む）広域スペクトラム・セフェム系薬剤に対する耐性を調査しました。耐性が疑われた菌株については、耐性因子を特定し、その特徴を明らかにしました。 ヒト由来サルモネラの耐性の調査：ヒトから分離されたサルモネラの広域スペクトラム・セフェム系薬剤に対する耐性を調査しました。	
3) 調査研究の達成度及び得られた成果（できるだけ数値化してください。）	
成果：薬剤耐性サルモネラの基礎的な資料を提供し、当所における耐性菌検査体制を強化することに資するデータを提供しました。	
4) 県民の健康の保持又は環境の保全への貢献	
日本でも、 <i>bla</i> _{CMY-2} 保有インファンティスを中心とする広域スペクトラム・セフェム系薬剤耐性サルモネラ菌株が2007年から顕著に増加し、且つ何らかの媒体をとおしてヒトにも感染していることが明らかになりました。この媒体としては鶏肉が疑われるため、鶏肉のサルモネラ汚染に対して何らかの対策を施す必要が明らかになりました。この情報を一層の食品衛生行政の充実のための資料として活用し、貢献する予定です。	
5) 調査研究結果の独創性、新規性	
日本で初めて、広域スペクトラム・セフェム系薬剤耐性サルモネラ菌株の増加を明らかにしましたので、多少の独創性が認められると思われます。	
6) 成果の活用状況（技術移転・活用の可能性）	
技術移転は保健福祉環境事務所、食肉衛生検査所職員を対象とした研修で積極的に行っています。活用は、文献的資料として、食品安全委員会、WHOあるいはFAOにて活用される可能性が高いと思われます（過去の研究にて実績あり）。	